

もの言う牧師のエッセー 第331話 ②「腰の低い勝者たち」

平昌五輪

ジャンプ女子ノーマルヒルで銅メダルを獲得した高梨沙羅選手が羽田空港に凱旋帰国。記者会見でカメラマンから、メダルを持つ高梨を3人が後ろから指を差すという構図のリクエストがあったそう。しかし彼女は自身だけが目立つような写真撮影をやりわり断り、4人で肩を組むショットに変更される一幕があった。

「私だけのメダルじゃない。みんなで獲ったメダルなので、私を囲んでみんなが指を差すのはおかしい」と自身だけが主役じゃないと強調。「目標にしていた金メダルには届かなかったが、日本チームにたくさん助けていただいてやっと獲れたメダルだった」と最後まで感謝を忘れなかった。当然であろう。

いっぽう、フィギュアスケート男子ショートプログラムの前日の公式練習でも珍事が発生。宇野昌磨選手がインタビューエリアでテレビの取材を受けた際、羽生結弦選手は画面に映り込まないよう、四つん這いになって宇野選手の足元を慎重にすり抜けた。さすが“気遣いの人”と評される羽生選手らしい一幕だが、何と涼やかな話だろうか。彼はその二日後に金メダルを獲得した。神は、

「驕る者は低くされ、心の低い人は誉れを受けるようになる。」箴言29章23節：共同訳、

と警告しているが何をか言わんやである。さらには、神が最も嫌うことの筆頭は

「驕り高ぶる目」同書6章17節：共同訳、

である。結局のところ、神を敬し、他者を尊重することが一番だ。気をつけよう。

2018-4-14

